

杜の伝言板

ゆるる

特集

復興への道

これからも海と共に生きる

●NPO法人森は海の恋人

想いとニーズに寄り添う

●NPO法人せんだい杜の子ども劇場

生きたフードバンク
独自の支援網

●NPO法人ふうどぼんく東北AGAIN



▲みやぎ女性復興支援ネットワーク

被災地の歴史資料を
後世に残すために

●NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク

助けを求める障がい者に
寄り添った支援を

●被災地障がい者センターみやぎ

被災地の女性を励ましたい

●みやぎ女性復興支援ネットワーク



▲NPO法人せんだい杜の子ども劇場

災害ボランティア・NPO活動



サポート募金

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業

●みやぎNPOプラザ 新入居団体紹介

農村地域づくりネットワーク

つねがらも海と共に生きる

NPO法人森は海の恋人

NPO法人森は海の恋人は、気仙沼市唐桑町西舞根を拠点として環境教育・森づくり・自然環境保全の活動に取り組んでいる団体です。豊かな海は、豊かな森から生まれる」という概念から、一九八九年に理事長の畠山重篤さんが「牡蠣の森を募う会」を発足し、気仙沼湾に流れ込む川の上流に植樹を始めたことが、設立のきっかけとなりました。その後も継続して活動を続け、毎年恒例となった植樹祭には、千人を超える人々が集まるようになり、「森は海の恋人運動」として全国的にも広がっていったことから、二〇〇九年五月、NPO法人化しました。



▲ 副理事長の畠山信さん

大津波発生から

東日本大震災の地震発生後、副理事長の畠山信さんは、船を津波被害から守る為、海に出ました。想像より遥かに大きな津波は船を襲い操縦不能になったため、船を捨て、命からがら泳いで大島へ避難しました。「今考えると、船に乗り沖へ出るよりも、もっと他にやる

べきことがあったと思います。なんと三月十四日に自宅へ戻ることができましたが、自宅、NPO法人事務所は全壊、知り合いや身内も津波で犠牲になっていました。」と畠山信さん。

その後は、物資の提供や炊き出しなどを行う支援団体が多く訪れるようになり、被災者と支援団体を繋ぐ役割を担うようになりました。その結果、被災者が今必要なことを適切に支援団体へ情報提供し、細かなニーズにこたえられるような支援を行えました。これは団体の支援が重なり合わないよう、情報共有の場として、唐桑地区の支援団体の会議を定期的な設けることでより一層効果が出ました。

被災者と支援者の立場から

地元とのつながりが強く、全国的にも知られている森は海の恋人は、被災者でもあり支援団体でもある為、信頼も厚く、多くの団体と共に支援活動を行っています。その一つが気仙沼湾の水質や海底の調査です。東京大学や京都大学、首都大学から研究者ボランティアを招いて、津波後の海の生物や環境の変化を毎月継続的に調査しています。調査を開始した五月は、ヘド口が

沈み、海の中の生物は死滅したかの様でしたが、徐々に生き物も増えて震災前の状況に戻って来ているという結果が出ています。今後も調査を通じて、水産業の復興を支援していく予定です。

また、六月には唐桑町にある九九鳴き浜の海岸清掃を支援団体やボランティアの力を借りて行いました。その結果、砂浜一面に広がっていたがれきは撤去され、天然記念物にも指定されているきれいな砂浜を取り戻すことができました。そして、六月五日には植樹祭も行うことができました。参加者は千二百名以上。「今年は開催出来なにかも思いませんでしたが、本当に多くの方々の支えがあり、植樹祭を行いました。」と畠山信さん。七月、八月には被災した子どもを対象にしたサマーキャンプを開催し、遊び場の少ない子どもたちと川遊びやツリークライミングを行い、ストレス発散の場となりました。

こうした活動と共に、畠山重篤さんと畠山信さんは全国各地で行われる講演会等にも呼ばれ、被災地の現状を伝えていきます。しかし、多くの団体や



▲ 1200人集まった植樹祭

企業から協働や助成金、支援の相談を受ける信さんは「支援を受けたい側と支援をした側でズレが生じてきています。」と言います。

多くの支援を組み合わせれば地域の再生に必ず繋がることにはなりますが、支援を提供する側は団体名や企業名を前面に出すことが条件のところもあり、組み合わせることは難しいのが現状です。同じ目的を持って、被災者の側に立って協力できる団体と復興支援に取り組んでいく必要があります。

一月十六日から、企業から支援を受け新たな事務所で活動している森は海の恋人。今後も、環境保全や環境教育に力を入れていく中、団体的目的でもある「自然とのつながりを持つた人づくり」に向けて、震災後の自然環境を活かした継続性のあるまちづくりへの取り組みも担っています。



▲ 新しい事務所

NPO法人森は海の恋人

〒988-0527
宮城県気仙沼市唐桑町西舞根133-1
●TEL/0226-31-2751
●FAX/0226-31-2770
●E-mail info@mori-umi.org
●URL http://www.mori-umi.org

想いとニーズに寄り添う
NPO法人せんだい杜の子ども劇場



▲代表の齋藤さん

せんだい杜の子ども劇場（以下、子ども劇場）は、「子どもに夢を、たくましく豊かな創造性を、合言葉に、子どもたちのための舞台鑑賞や、自然体験、そして親や家族を含めた子育て支援を行っています。」

震災当夜、指定管理している榴岡児童館では、交通が混乱して両親が迎えに來られず、自宅へ帰ることができない小学生や、近隣の被災親子が児童館で一泊を共にしました。その後、指定避難所の榴岡小学校から乳幼児とママ、妊婦さんの受入を依頼され、即座に引き受け、以後、二十四時間体制で二週間、地域の避難所として稼働しました。

今、必要なのは

本来ならば、三月二十九日に開催予定だった子ども企画による「榴岡児童館ワークショップまつり」を六月四日に開催。ステーション発表や屋台は多くの親子連れで賑わい、総参加数二四〇名を超えるほどでした。「その時、震災後から、子ど

もたちも親も、思いつき遊び「ことを我慢していたんだ」と改めて感じました」と、代表理事の齋藤純子さん。この時、子ども劇場は、被災地域への支援として、親も元気になることで子どもも元気になるような子育て支援や、世代を超えた子どもたちが交流できるあそび場の提供、そして観て、感じて、心を解放することができる舞台鑑賞や、アートという芸術の力を被災地に届けよう！という気持ちを固めました。幸い、福祉医療機構からの助成が決定し、この思いが詰まった「支援の輪をつなぐ子育て応援まつり事業」が決定しました。

つながる、つなげる、広がる

この事業は、二月四日・五日に仙台で開催される「杜の子まつり」とその前に被災地域三ヶ所で開催されるイベントで構成され、企画運営は、子ども劇場の呼びかけで集まった、児童館や障がい児放課後ケアや子育て支援の施設を運営するNPO、市民センター、そして全国の子ども劇場のネットワーク団体で構成される「みんなつながれ！杜の子まつり実行委員会」が担っています。

フレイブントは、仙台市東中田地区、

▼パルーンアート研修会



東松島市、石巻市の三ヶ所で開かれました。津波が近くまできた東中田地区の子どもたちは幸い津波は免れたものの、避難者のな

かには、障がいをもつ子どもたちもいて、支援が行き届かなかった状況も見えてきたことから、障がいの有る無しに関わらず一緒に楽しみ、地域内で顔の見えるパルーンアートの関係づくりをしよう！と、十一月十九日体験コーナーを入れた「親子で遊ぼう！ブッチャーのクラウンショー」を開催しました。

一方、多くの地域が津波の被害を受けた東松島市では、様々な地域から仮設住宅へ入居している子どもを持つ家庭から、「子どもたちをいっばい遊ばせてほしい！」とのニーズがあり、十二月二十六日、小野駅前仮設住宅で「びり&ブッチャーのクラウンショー」あそび&サロンを開催。この地域では、子どもだけではなく、世代を超えた交流も実現しました。クラウンショーや新聞ハックづくり、魚釣りゲームなど、三十人ほどの人が参加し、お茶やお菓子を食べながら、ゆつくりお話できて、よかったです。と和やかな時間を楽しみました。

三ヶ所目は、一月十五日、石巻市河北総合センターでの開催でした。石巻と仙台のジュニアリーダーが交流会を行った際、石巻のジュニアから被災しながらも避難所で活動を続けていたという話を

聞き、仙台のジュニアも何かできないかと模索していました。そんなジュニアの声を聴き、仙台や石巻の大人が行動を起こしました。それに「ニーズに寄り添う私たちの思いとつなぐ支援が重なり、協働することになりました。」と齋藤さん。

当日はクラウンショーに加え、仙台のジュニアリーダーによる劇やゲーム、午後からは、ジュニアリーダーたちのためのスキルアップ研修会を開き、四十名程のジュニアリーダーは、クラウンのブッチャーさんから直接パルーンアートを習う機会となりました。

「みんなつながれ！杜の子まつり」は、二月四日・五日に本番を迎えます。エルパーク仙台を会場に、「子ども」の未来と「復興支援」二〇一二年アートでつなぐ子ども笑顔のステージマのシンポジウム、そして五日には三つの舞台鑑賞が用意されています。大人も子どもも、元気になりたい人集まれ〜！



▲クラウンショーの様子(東松島)

NPO法人
せんだい杜の子ども劇場 事務局
〒981-3133
仙台市泉区泉中央4-17-1
●TEL・FAX/022-375-3548
●E-mail morinokodomo@s8.dion.ne.jp
●URL http://www.ab.auone-net.jp/~senmori8/

生きて
フードバンク独自の支援網

NPO法人ふうどばんく東北AGAIN

「寄稿」事務局長 高橋陽佑さん

フードバンクとは、品質に問題が無くまだ食べられる状態の食品を、企業や個人から寄付頂き、福祉施設や生活困窮者支援団体へ無償で届ける活動のことを言います。ふうどばんく東北AGAIN(以下、あがいん)は、東北では初となるフードバンク団体として二〇〇八年十一月に設立されました。四十年ほど前のアメリカで、一個人が発明したこの活動は、徐々に世界各地に広がって行き、日本では十年ほど前から団体が出来はじめた、始まったばかりの取り組みです。

日本全体で、毎年五百万〜九百万トンの「まだ食べられる食品」が廃棄されていると言われています。このような社会問題を、環境と福祉の両面で解決できるフードバンクは、様々な連携関係の中で成り立っています。当団体もみやぎ生活協同組合の支援活動の一環として、二〇一〇年からフードバンクのための事務局職員を、一名派遣して頂くなど、様々な支援を頂きながら活動しています。

団体活動停止

震災発生時には、事務所が仙台市市民活動サポートセンター内にありまし

た。施設も安全確認や停電のため事務所スペースが使用できない状況となり、専任の有給スタッフもおらず、各役員も本業を抱えながら団体運営を行っていた中で、実質的な団体としての活動は実行不可能になってしまいました。

しかし各自の本業の中で、あがいんのネットワークを活用する形で支援活動を再開させました。三月十二日の深夜、運良く電気が復旧し、いつまた停電になるか分からない状況の中、全国のフードバンクへ向けて支援を要請する一通のメールを送りました。団体の状況や仙台の被災状況を伝えたそのメールに触発され、まずは東京でフードバンクを行うセカンドハーベスト・ジャパン(以下、2h)が、翌々日から食品を届けて頂きました。2hからあがいんへの物流ルートは急速に発展し、一週間後には、全国のフードバンクや市民から寄せられた食料を、2hが全て東京でとりまとめ、被災地へ向けてピストン輸送するという、フードバンク独自の支援網が構築されてい



▲事務局長の高橋さん

ました。個人からの寄付は、全てシャットアウトされ、ガンリンも不足していた時期に、このような支援を実現できたことは、フードバンクの社会的なセーフティネットの重要性や可能性を知らしめるという意味で、大きな成果であったと思います。

ただ、先の状況により、せっかくのルートが出来ていながら、あがいんとして物資を受け入れる余裕がありません。そこで、連携団体の一つであるNPO法人ワンファミリー仙台が、仙台市役所近くにある事務所を一時的に間借りし、そこに届けて頂きながら皆で一緒に配布活動を行いました。



▲配布活動の様子

五月に入り、もう一つの連携団体であるNPO法人未来環境福祉ネットワークが宮城野区蒲生に所有していた倉庫の一部を、ほぼ無償で間借りすることができ、最終的には事務所機能も含めて移転しました。事務所と倉庫が一体となり、機動性が高くなったことで、従来はお断りせざるを得なかった大量の食品を受け入れる事が出来、団体単独での支援活動も再開することができました。五月から七月末時点の仮集計では約十六トンの食品を被災者支援のために提供しました。

これからが本番

十月には、東京で開催されたフードバンクシンポジウムで活動報告を行いました。

このシンポジウムのテーマは「フードバンクによる震災支援の可能性と課題」。避難所から仮設住宅やみなし仮設への移住がほぼ終了し、今後は個々人の状況に合わせた支援活動が必要になってくる中で、フードバンクとして継続的かつ社会的自立まで含めた支援体制をどうやって整えていくか。それが今後の課題として、参加した全てのフードバンク団体から出された意見でした。

現在このような長期的な支援体制の構築については、必要性はますます高まって来ています。震災直後にフードバンクが見せたパフォーマンスを、また別の次元で発揮していきたいです。これからが本番です。



▲AGAINのメンバーと連携団体の皆さん

NPO法人ふうどばんく東北AGAIN

〒983-0002
仙台市宮城野区蒲生二本木127-5
●TEL/022-388-8615
●FAX/022-388-8616
●E-mail info@foodbank.or.jp
●URL http://www.foodbank.or.jp

被災地の 歴史資料を後世に残すために NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク(以下宮城資料ネット)は、二〇〇三年の宮城県北部地震で、被害を受けた文化財の救済活動を契機に、宮城県内の歴史研究者や文化財担当行政職員などが中心となって設立し、二〇〇七年にNPO法人となりました。これまで、県内各地に所在する古文書の状況調査やデータ収集、被災した歴史資料の保全活動などをおこなってきました。東日本大震災でも全国の関係機関と連携して、大規模な保全活動を展開し、古文書を中心とした歴史資料の散逸や、消滅を防ぐのに大きな役割を果たしています。

震災で資料保全の 大切さを再確認

今回の震災では、事務局を置く東北大学東北アジア研究センターも大きな被害を受けました。幸い四人の事務局スタッフ全員は無事でしたが、事務所は立ち入り禁止状態に。危険な状態の中、機材やデータを運びだし、体制を立て直した上で、三月十五日から活動を再開しました。

ガソリン不足で被災地へのレスキュー活動がままならない中、まず取り組んだのは、被害状況の把握に向け

た情報の収集です。メールニュースを発信するなどして、被害状況の情報提供を呼びかけ、それと並行して関係機関との連携を図っていきました。その結果、会員や自治体関係者から五三七件の情報が寄せられ、これらの情報をもとに宮城県および岩手県南部を中心に、歴史資料の保全活動を展開しました。

四月に入り、ようやくガソリンの目処が立ち、津波被害地域の石巻を皮切りに現地活動を開始しました。以前調査を行った、多くの古文書を保有していた旧家のいくつかは、津波被害で家も蔵も流出し、膨大な数の歴史的資料が失われてしまいました。壊滅的な被害状況を目の当たりにし、衝撃は大きかったです。それでも、所蔵者や関係者の方々は困難な状況にありながら、訪問した私たちを暖かく迎えてくださいました。」とスタッフの天野真志さん。

今回の震災では、以前調査をおこなったお宅以外にも保全活動を実施しました。その多くは、古文書をお持ちの方が直接事務局に連絡してきたものでした。甚大な被害を受けたにもかかわらず、地域やお宅の記憶を何とか残したいという方々の想いに触れ、改めて地域に残された歴史資料の重要性とそれらを保全する意味を認識しました。

全国の多くの 人々と連携

保全活動がさまざまな媒体で紹介されてからは、所蔵者からの依頼も増え、四月から翌一月までに調査保全活動をおこなった数は、一七自治体八三件に上ります。こうした活動は、文化庁や県・各市町村の担当課をはじめ、奈良文化財研究所、東北芸術工科大学、神戸歴史資料ネットワークなど、全国各地のさまざまな関係機関との連携で実施されました。

津波被害を受けた資料のレスキューは、現地に出向いて被災した資料を所蔵者からお借りしたのち、泥を落とし、水洗いして塩分を洗い流し、乾燥させます。被害の大きな資料などは、関係機関の専用機械でフリーズドライさせる場合も。和紙で作られた江戸時代の古文書は、バルブ材の紙よりも水に強く、使用される墨もインクとは違って水では消えません。そのため、丁寧に処置すれば元に戻すことができます。こうしてきれいに蘇らせたものを、一点一点デジタル撮影して、データを保存し、そののち持ち主に資料を戻すという



▲ スタッフの
天野真志さん



▲ 洗浄乾燥などを施し、資料を蘇らせる

作業を繰り返し返す。これには多くの人手が必要で、HPなどで募り、これまでにのべ六百人を超えるボランティアの協力を得ることができました。

ひとつでも多く 残したい

津波被害により、これほど膨大な数の和紙資料が被害を受けたことは、全国でも過去に例がなく、またカビが生えているものも多いことから、さまざまな技術を応用し効率よく処置する方法を、手探りで見つけていきました。「当初多くの被災資料を前に、自分達にどこまでできるだろうかと不安でしたが、とにかく、この歴史資料を後世にすつと残したい。その一心でひとつひとつの課題をクリアしていきました」と天野さん。今後は沿岸部に加え、内陸部で被害にあった歴史資料の保全も積極的におこなう予定です。また地域の歴史を知る上で重要な古文書をひとつでも多く残すため、行政や地元の方や協力を、啓発などにも力を入れて行きたいと考えています。



▲ ボランティアの皆さん

NPO法人
宮城歴史資料保全ネットワーク
〒980-8576
仙台市青葉区川内41
東北大学東北アジア研究センター気付
●TEL・FAX/022-795-7546
●Email miyagi-shiryounet.org
●URL http://www.miyagi-shiryounet.org

助けを求めらる障がい者に

寄り添った支援を

被災地障がい者センターみやぎ

震災後の四月一日、宮城県内で障がい者支援を行っている十四団体が集まり、被災地の障がい者の救援を目的に、被災地障がい者センターみやぎを立ち上げた。事務局は、仙台市太白区長町にあるCILたすけっと(自立支援センター)に置き、その運営には、阪神淡路大震災救援活動を教訓に生まれた被災障害者支援団体のNPO法人ゆめ風基金の支援がありました。代表は、CILたすけっとの代表である及川智さんです。

及川さんは、震災当初、近くにある指定避難所の体育館にスタッフと避難しました。しかし、避難所では夕方から徐々に人が増え始め、肢体不自由で車椅子の及川さんは身動きが取れない状況となったのです。トイレにも行けず、毛布や水などの物資の配布はしていませんでしたが混乱の中、受け取りにも行けない状況が続き、午後十時ごろにやむなくCILたすけっと事務局に戻りました。そこで、事務局を避難所代わりとして、十五人前後が生活することになりました。

幸いなことに、



▲ 代表の及川智さん

事務所は水が使えない状態で、次の日から電気も使えなくなったため生活することができたのです。

「障がい者が指定避難所に滞在することは本当に大変なことでした。混乱時の避難所を体験した及川さんは言います。このことがきっかけとなり、支援から漏れる恐れが高い障がい者の救援を行う為、被災地障がい者センターみやぎの設立に繋がりました。

助けてと声に出せない

震災後すぐに全国から多くの支援の手が差し伸べられたため、三月十四日からガソリン不足の中でも車を走らせることができ、救援物資を届けることができました。四月に入ってからには県外からのボランティアが常時十名程参加してくるようになり、ネットワークの情報を駆使して、助けを求めらる障がい者の支援を行いました。また、プロダグでも、「大地震大津波の影響を受けた障がい者団体のみならず、被災状況をお知らせください。各障がい者活動拠点の建物や設備等に被害がある場合、あるいは被災障がい者救援にあたる場合などは、救援金、物資、人の派遣など必要な支援をお届けします」と呼びか

ける一方、連絡を待つのではなく直接被災地に行き、避難所に障がい者がいないか、歩いていける人にも心当たりはないか聞き、障がい者を探すことを中心に活動しました。障がい者に出会ったときには、困っていることを聞き、物資の支援や入浴の介助などを行ってきました。「普段から関係している障がい者の支援も大事ですが、この時は支援から漏れている人たちの支援に力を注ぎました。」と及川さん。障がい者手帳の有無にかかわらず、介護や介助を必要とする方への支援をしてきました。



▲ 一般避難所での震災当日の様子

五月中旬からは仮設住宅を回り、障がい者の調査をしました。避難所で生活している障がい者はなかなか見つからず、たまに出会った障がい者に、なかなか困ったことはないかを尋ねても、多くが「今は困っていることはありません」という返事です。しかし、「支援から漏れた被災者はまだまだいるはず」と、ニーズ調査と支援を継続しました。

六月には山元町で被災したNPO法人ささえ愛山元が中心となり、県南支部が立ち上がりしました。その後も障がい者のサポートが少ない東北支部や石巻支部が立ち上がり、県内の障がい者支援を継続しています。

今年からは仮設住宅だけでなく、なかなか把握が難しかった、みなし仮設にしている障がい者の支援も行っていくため、仙台市内の被災者約六一五〇世帯に配布される震災復興かわら版「みら

いん」や、多賀城市全戸(約二万五千世帯)に配布される「えんしん」(多賀城市民活動サポートセンター発行)に情報を掲載し、支援の輪を広げています。

障がい者の自立生活支援

「今回の災害では、緊急時の障がい者避難の在り方に大きな課題が残りました。日ごろからサポートを受けている人たちが、自分一人ではなんとかならなければならぬということとは本当に大変なことでした。」と及川さん。震災時の混乱の中、行政にすべては頼りません。普段から隣近所の方との付き合いを大切に、一番身近にいる人たちの支援を受けられることが重要。そういった意味でも、「障がい者をもっと知ってもらい、指定避難所はすべて障害のある人もない人も使い勝手が良いユニバーサルデザインにする必要があります。」と、及川さんは言います。

今後は千件以上、震災時の障がい者アンケート調査の結果を基に政策提言をしていくと共に、障がいがあっても地域で生きていく活動を広げるイベントや報告会、シンポジウムも行う予定です。そしてこれからは、障がい者が地域で自立して生活できる支援へとシフトし、活動していきます。

被災地障がい者センターみやぎ

〒982-0011
 仙台市太白区長町1-6-1
 (CILたすけっと気付)
 ●TEL/022-746-8012
 ●FAX/022-248-6016
 ●E-mail cil.busshi@gmail.com
 ●URL <http://blog.canpan.info/tasuketto/archive/563>

被災地の女性を

励ましたい

みやぎ女性復興支援ネットワーク

仙台市を中心に、一九九九年から主にDVやデートDVにあった性暴力被害女性の回復を目標に、電話相談や話し合いの場、シェルターの提供をしているNPO法人ハーティ仙台の代表、八幡悦子さんを中心に、継続的に被災地の女性を支援する目的で、みやぎ女性復興支援ネットワーク(以下、みやぎジョネット)を結成しました。メンバーは、医療関係者や団体職員、会社員、そして自ら被災した女性などです。八幡さん自身が沿岸部の石巻出身のため、ガソリンが手に入った四月から、石巻市へ通い、知人へ物資を届けるようになりました。また、NPO法人ハーティ仙台のメンバーも、個人的に震災後から知り合いへの支援を続けていました。



◀ ジョネットセットを準備



▲ サロンで手工芸

のメンバーや、周囲の女性たちにこれらの支援について声掛けしました。宮城県や全国の女性、企業が、被災地の女性を支援したいと思っている。その想いを結ぶことは、個々に活動するよりも団体として取り組んだ方が良いと考え、みやぎジョネットが発足しました。

ジョネットセットを準備して

倉庫の提供も受け、ホームページを五月に立ち上げ、必要な物資を募ったことで、事務局には全国の個人や団体

から、様々な物資が届きました。県外からの支援を考えている方や、電話での相談もあり、事務局の留守電は最も多い時は百件にも及びました。

また同月には、避難所で、手工芸、お抹茶会、ハンドマッサージ、ネイルケアを行う、ジョネットサロンを開始。届いた物資をメンバーに呼びかけ分けし、サロンに集まる人に均等にいきわたるよう、ジョネットセットとして詰め合わせを準備し、被災地に届けました。全国からのお菓子の提供もあり、サロン活動に役立てました。お菓子を食べながら、笑顔が広がる時間になりました。

また、「ハンドマッサージは対一で、じっくりと向き合って行うので、ふれあいがお話を聞かせてもらうきっかけになればと考えました」と、メンバーの渡部美保さん。九月からは、仮設住宅の集会所で、サロンを実施しています。支援のとき、必ずフリーダイヤルの相談電話を伝えています。「ハーティ仙台のメンバーも電話を受けているよ」と伝えています。アメリカの有名な全国団体 Futures Without Violence 主催、反女性への暴力十六日キャンペーンの一環「The Days of Activism Award」で、取り組みが評価され、ハーティ仙台とみやぎジョネットは、同時受賞しました。

人と人のつながりをつくる

サロンや物資支援活動だけでなく、実際に被災地の女性たちの視点から震災について発信しようという、「おんなの語り場」が七月二十四日にみやぎジョネットと、宮城県の女性議員の有志実行委員会によって開催されました。

▼ 気持ちをこめて、ハンドマッサージ



仙台駅前の会場と、登米市、岩手県一関市、福島県郡山市でインターネットを使用した電話回線スカイプを利用し、ネット会議を開催、中継。仙台会場には、百五十人近くの参加があり、交互に映される会場ごとの映像を真剣に見入っていました。電波がなかなか入らず準備には苦戦しましたが、それぞれの中継地点からは今どういった状況か、現場の声を短い時間のなかで女性の声を発信することができました。

これまでの活動を振り返り、「時期に合わせて、活動は変化していきます。喜んでくれる人がいるので、ハーティ仙台の活動やメンバーそれぞれの仕事と両立して、支援を継続できないか考えています。これからも、被災地の女性の声を聞き、今後被災女性のサポートを模索してゆきたいと思っています。」と、八幡さんは話してくれました。

みやぎ女性復興支援ネットワーク (みやぎジョネット)

〒981-0911
 仙台市青葉区台原5丁目13-23
 レジデンス台原1F
 ●TEL・FAX/022-233-2434
 ●E-mail miyagi.jonet@gmail.com
 ●URL miyagi-jonet.blogspot.com

農村地域づくりネットワーク

みやぎ NPOプラザ
このページは、宮城県からの
NPO関連のお知らせです。

東日本大震災では、被害にあつた宮城県内の旧家や区有文書から古文書を引き取り、それらを大切に保管、土砂まみれになつたものは虫干し、修復の工程を経て、



▲ 代表の佐藤晴香さん

▲ 震災で被害にあつた農村古文書の救出

東日本大震災では、被害にあつた宮城県内の旧家や区有文書から古文書を引き取り、それらを大切に保管、土砂まみれになつたものは虫干し、修復の工程を経て、

震災で被害にあつた農村古文書の救出

みやぎNPOプラザの事務室に、十月よりNPO農村地域づくりネットワークが入居しました。NPO農村地域づくりネットワークは、宮城県を中心とした東日本の農村の地域づくりを、活発にしていきたいと志す会員が集まり、農村古文書の収集・修復・整理、高齢者からの聞き取り調査等の活動を行っています。文字・絵図などの農村古文書には、現代に活かせるさまざまな村づくりのアイデアがあります。温故知新の精神を大事にし、歴史的観点からの農村地域の個性の見直しを意図としています。と、代表の佐藤晴香さんは話します。



▲ 調査資料を分類

解決を行っています。農村・農村・農業が、これからどう震災を乗り越えていくかを、農村におけるマンパワーの充実を図るために調査・分析・研究をしている独立行政法人農村工学研究所農村計画研究室や、東日本の歴史を知る上で、蚕の調査研究をしている独立行政法人蚕糸試験場などの専門職メンバー等で考え、農業をサポートする試みも、新たに始まりました。その取り組みは、今後県内各地の農村で、古文書を読んで学習する講座や、古文書に記載されている古地図を現代の地図と合わせて復刻し、現代

に活かす事例の提案などのワークショップを開催する予定です。

農村が抱える課題に対し提言

これまでに、東日本(特に宮城県・山形県・群馬県)の三千人以上の農村古文書を解読し現代語訳。講演会や農業関係の学会で研究発表、そして、ワークショップを開き、地域に還元する活動をしてきました。また、高齢者から、農村の昔の暮らしや、戦時中の農村での暮らし、戦後の農村復興などについて聞き取り調査を実施。今後は震災問題、TPP問題、担い手問題など、農村が抱えるさまざまな課題に対して歴史的視点から提言をしていきます。

◆問合せ先

NPO 農村地域づくりネットワーク

- TEL/022-293-9540
- FAX/022-293-9540
- E-mail harukasatoh0219@cosmos.ocn.jp

● NPO法人の設立を新しく申請した団体 2011年12月11日～2012年1月10日申請分

団体名	所在地	活動内容	受理日
アクティブリンク宮城	仙台市青葉区	若者たちに対する社会活動参加支援事業等	12/15
日本ペット環境教育センター	仙台市若林区	市民とペットの良好な環境を保つための環境学習開催事業等	12/20
ボランティアインフォ	仙台市青葉区	NPO・市民、ボランティア団体に対してボランティア募集等の情報を提供する事業	12/22
バスケットボール振興法人DOOR	仙台市泉区	バスケットボールを通じた健康づくり及び地域コミュニティ活性化支援事業等	12/28

● NPO法人に認証された団体 2011年12月11日～2012年1月10日まで

団体名	所在地	活動内容	認証日
亙理いちごっこ	亙理郡亙理町	被災地域を中心としたコミュニティ形成事業等	12/15
やまぶき創造塾	白石市	植栽運動によるまちおこし事業	1/4
グットニュース・プロジェクト	黒川郡大衡村	ゴスペル音楽普及のためのイベント事業等	1/5

宮城県の
NPO法人数

612
団体

2012年1月10日
現在数

※解散、所轄庁変更、
認証取消、撤回した
団体を除く。

●みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。

みやぎNPO情報ネット

<http://www.miyagi-npo.gr.jp>

みやぎNPOプラザ

〒983-0851
仙台市宮城野区榴ヶ岡5

TEL:022-256-0505 FAX:022-256-0533

E-mail:npo@miyagi-npo.gr.jp

セーブ・ザ・チルドレン×さなぶりファンド こども☆はぐくみファンド

- 助成対象: 岩手県、宮城県、福島県において実施される、子どもに関わるプロジェクト
※子ども: 0歳~18歳未満の子ども・若者を含みます
- 対象団体: 岩手県、宮城県、福島県に主たる事務所を置く、子どもを対象に支援活動をしている非営利活動団体(法人格は不問)
・子どもの権利条約の理念を尊重し、具体化するような事業を実施している団体
※条件の詳細はHPIにて募集要項をご参照ください
- 助成金額: 一団体あたり上限金額150万円
- 助成期間: 2012年5月1日(火)~2013年4月30日(火)までの原則1年間
- 募集締切: 2月29日(水) 消印有効
- 連絡先: 一般財団法人 地域創造基金みやぎ
こども☆はぐくみファンド プログラム事務局
〒980-0804 仙台市青葉区大町1-2-23桜大町ビル303
TEL:022-748-7283 FAX:022-748-7284
E-mail:scjgrant@sanaburifund.org

URCAまちづくり企画支援事業

- 助成対象: 支援対象団体等が常時活動対象としている地区において、地区の活性化を目的として実施する事業
・事業の内容は特に制限を設けず、ハード整備やイベント等のソフト事業等幅広く対象とします
- 対象団体: 市街地において地域の活性化、まちづくりなどを継続的に行っている、または行おうとしている団体等
・NPO、協議会、組合、任意団体等いずれでも応募可能
※詳細、申込書類等はホームページをご確認ください。
- 助成金額: 総額100万円(複数団体が選定された場合は合計金額)
- 募集締切: 平成24年2月29日(水)
- 連絡先: 社団法人再開発コーディネーター協会
URCAまちづくり企画支援事業事務局
〒105-0014 東京都港区芝2-3-3
芝二丁目大門ビルディング7階
TEL:03-6400-0261 FAX:03-3454-3015
E-mail:jigy@urca.or.jp

第13回 社会貢献基金助成

- 助成対象: 1)「婚礼(結婚式)、葬儀(お葬式)など儀式文化の調査研究」事業
2)高齢者福祉事業 3)障害者福祉事業
4)児童福祉事業 5)環境・文化財保全事業
6)国際協力・交流事業
- 対象団体: 日本国内に事務所を置く、3年以上の活動実績を持つ非営利組織、大学、研究機関(個人も可)
※条件の詳細はHPIにて募集要項をご参照ください
- 助成金額: 1)上限100万円 2)~6)上限200万円(総額約1,000万円)
- 助成期間: 平成24年度内に行われる事業
- 募集締切: 2月末日 必着
- 連絡先: 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
〒105-0004 東京都港区新橋1-18-16 日本生命新橋ビル9F
TEL:03-3596-0061

国際交流事業等助成金(平成24年度第1期)

- 助成対象: 営利等を目的としない次に掲げる事業
1)県内で開催する次に掲げる国際交流事業

- 2)外国において、本県の優れた文化等を紹介し、外国人と交流を図る事業
- 3)開発途上国等の地域住民に対して行う各種の協力・支援事業
- 4)その他、地域の国際交流・協力の推進に寄与すると認められる事業

- 対象団体: 団体の運営に必要な事項について定めがあり、原則1年以上の活動実績がある団体
- 助成金額: 1件あたり上限25万円
※助成対象経費額により異なります
- 助成期間: 4月1日~5月31日までに開始する事業
- 募集締切: 3月10日(土)
- 連絡先: 財団法人宮城県国際交流協会 企画事業課
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL:022-275-3796 FAX:022-272-5063
E-mail:mai@mia-miyagi.jp

2012年度

藤本倫子環境保全活動助成基金

- 助成対象: 1)環境保全活動助成
「地域に根差した環境保全活動」や、「地球温暖化防止を目的としたライフスタイルの見直しを促進する活動」
2)環境教育プログラム開発助成
子どもを対象にした「体験型環境プログラムの開発」や「環境教育教材の開発」
- 対象団体: 1)地域に根差した環境活動を、継続して2年以上行っている団体
2)環境教育プログラム・環境教材の開発実績がある団体
- 助成金額: 上限30万円
- 助成期間: 2012年4月1日~2013年3月31日
- 募集締切: 3月12日(月)
- 連絡先: 財団法人日本環境協会
藤本倫子環境保全活動助成基金事務局
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16
馬喰町第一ビル9階
TEL:03-5643-6262
E-mail:jea@japan.emai.ne.jp

東日本大震災現地NPO応援基金 第2期

- 助成対象: 被災者の生活再建を支援する現地の組織基盤強化の取り組み(NPOの人的基盤、財政的基盤、情報基盤など運営基盤の整備)に必要な人件費等を資金支援
- 対象団体: 1)岩手県、宮城県、福島県において直接被災者の生活再建を支援する「現地NPO」
2)上記(1)の活動を行う団体の「現地ネットワーク組織」または「現地中間支援組織」
- 助成金額: 1件当たり500万円以内(1回の選考での助成総額は概ね2,500万円)
- 助成期間: 応募日に応じて、4月、7月、10月初日から1年間以内
- 募集締切: 11月1日(火)~2012年8月31日(金)までの期間、随時受付
※第2回助成(2012年4月~)分の締切は、2012年2月末となります。
- 連絡先: (特活)市民社会創造ファンド
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル267 B
TEL:03-3510-1221 E-mail:ksakamoto@civi.fund.org

- 参加費:無料
- 申込方法:氏名、電話番号、所属、参加人数を明記の上、FAX、メールにて申込
- 主催:財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)
- 連絡先:〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45
フォレスト仙台5階
TEL:022-276-5118 FAX:022-219-5713
E-mail:melon@miyagi.jpn.org

2/23 平成23年度 福祉有資格者就労支援研修

資格を活かして福祉の仕事に就こう!!「以前福祉関係の仕事をしていて、また働きたい」「これから福祉職場で働きたい」「知識やスキルを改めて磨きたい」などの方にお勧めです。

- 日時:2月23日(木) 10:00~16:00
- 場所:ネ!ットU仙台市情報・産業プラザ
アエル6F セミナールーム2B
- 内容:★変わりゆく福祉情勢(仮)
★人間関係を円滑にするコミュニケーション技術(仮)~コミュニケーション能力を飛躍的に高める~ワークショップ
- 講師:日下輝美氏(福島学院大学)
- 対象:介護福祉士等の国家資格を有している方
※人材センター未登録の方は当日登録していただきます
- 定員:70名程度(先着順)
- 参加費:無料 ※当日の昼食・飲み物等は各自で準備
- 申込方法:所定の申込用紙に必要事項を明記の上、FAXまたは郵送にて申込
- 申込締切:2月20日(月)
※定員超過で受講できない場合のみ、受講の可否を通知します
- 主催:社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
宮城県福祉人材センター
- 連絡先:〒980-0014 仙台市青葉区本町3-7-4
(宮城県社会福祉会館1F)
TEL:022-262-9777 FAX:022-261-9555

2/25 誰でもわかるパソコン講習 ~障害者・高齢者・難病者・初心者対象の講習~

パソコンを購入して始めたい人、パソコンはやっているけどちょっと分からないことがある…そんな人向けに開催されるパソコン教室です。ワードやエクセルからフリーソフト、デジカメに至るまで様々な個別のニーズに対応します。

- 日時:2月25日(土) 13:00~15:30
- 場所:みやぎNPOプラザ(仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地)
- 参加費:1,000円
- 主催:(特活)ピートスイッチ
- 連絡先:TEL:070-5620-8198 FAX:022-292-7162

2/25 東日本大震災/鎮魂と祈りのコンサート 李政美(Lee Jeongmi) & 苔米地サト口 LIVE

- 日時:2月25日(土) 14:00~16:00
- 場所:カトリック元寺小路教会
大聖堂(仙台市青葉区本町1-2-12)
※駐車場は使えませんので、公共交通機関をご利用ください。
- 出演者:李政美氏/苔米地サト口氏

- 参加費:無料
※協賛団体の測定室の活動のためカンパをお願いします
- 主催:カトリック正義と平和仙台協議会/どんくま基金
- 連絡先:どんくま基金 TEL:080-1827-8772

2/29 市民のための作文講座 ~東日本大震災を書き残す~

東日本大震災を書き残しませんか?書くきっかけがほしい方や、書き方がわからず困っている方などにお勧めです。震災の記録以外のことを書きたい方、本を作りたいとお考えの方などもどうぞ。

- 日時:2月29日(水) 19:00~20:30
- 場所:仙台市民活動サポートセンター 研修室2
- 講師:大泉浩一氏(ライター・編集者)
- 定員:15名(申込先着順)
- 参加費:500円
- 主催:NPOメディアデザインサポート
- 連絡先:〒980-0801 仙台市青葉区木町通1-1-11
朝日プラザ北一番丁1階
TEL:090-3049-0613 FAX:022-224-5308
E-mail:npo@md-sendai.com

3/9 NPOのためのマネジメント講座(6) 安心して総会をむかえるために

総会は、1年の成果を会員に報告し、事業運営の方向を決める大切な場です。この総会を実りあるものにするために、準備スケジュールの立て方、事業報告書や計画書の作り方などのポイントを分かりやすくお話しします。

- 日時:3月9日(金)14:00~16:00
- 場所:みやぎNPOプラザ第2会議室
- 講師:大久保朝江氏(NPO法人杜の伝言板ゆるる代表理事)
- 対象:NPO・市民活動団体の役員やメンバー。関心のある方。
- 定員:20名(申込先着順)
- 参加費:800円
- 主催:宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 企画・実施:NPO法人杜の伝言板ゆるる
- 連絡先:みやぎNPOプラザ

3/11 ふるさとづくり講演会「震災復興祈念講演」

震災後の各地域で行われている「復興イベント」の紹介と、参加者の皆さんとの意見交換の中で、宮城と館矢間の「明日」を探ります。また、地鎮祭として古代から荒ぶる地の神を鎮めてきた祭事「四股」も行います。

- 日時:3月11日(日) 13:30~15:10
- 場所:館矢間まちづくりセンター 大ホール
(丸森町館矢間館山字大門148-1)
- 内容:★講演「震災 昨日・今日・明日」
講師:大久保朝江氏(みやぎNPOプラザ館長)
★地鎮を祈る「大地を鎮める四股踏み」
地鎮者:東北大学学友会相撲部
★黙祷:14時46分
- 主催:ワスレタコロノまさか団
- 共催:館矢間地区協議会
- 協力:東北大学学友会相撲部
- 連絡先:館矢間まちづくりセンター TEL:0224-72-2120

- 対象: NPOや市民活動団体のメンバー、スタッフ等
- 定員: 20名(申込先着順)
- 参加費: 800円
- 主催: 宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 運営・実施: (特活)杜の伝言板ゆるる
- 連絡先: みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

2/17 NPOのための雇用なんでも相談

NPOの雇用手続き全般から、就業規則の作成や見直し、職場環境・人間関係の問題まで、雇用に関することをご相談下さい。

- 日時: 2月17日(金) 13:00~17:00
- 場所: みやぎNPOプラザ
- 定員: 3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間
- 主催: 宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先: みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

2/19 ライブメッセージ2012! 「あなたの生きかた~わたしの 生きかた~生き方を知る...!!」

音楽・芸術・主張・スポーツ・パフォーマンスなどの自己表現の場としてライブメッセージを開催します。

- 日時: 2月19日(日) 13:00~16:15
- 場所: 仙台市福祉プラザ1階 プラザホール
(仙台市青葉区五橋2-12-2)
- 発表者: 障害のある方(宮城県内の個人、グループなど)
- 対象: 関心のある方など誰でも
- 参加費: 無料
- 主催: 宮城県障害者福祉センター
- 連絡先: 宮城県障害者福祉センター
「ライブメッセージ2012!」係
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-6-2
TEL:022-291-1585 FAX:022-297-0721

2/21 3/13 親業セミナー

子どものことをこんなに思っているのに、何故言うことを聞かないの? 何度言ったらわかるの? など、日頃疑問や問題を感じていませんか?
このセミナーでは、親と子のコミュニケーションをより良くし、子どもの考える力を伸ばす“ゴードン博士の親業”の方法を紹介します。

- 日時: 2月21日(火)「心に届く言葉とは…」
~あなたの一言で子どもが変わる~
3月13日(火)「子どもにどう向き合う?’
~親と子のコミュニケーションをより良くするには~
両日10:00~11:45 ※月1回開催しています
- 場所: エル・パーク仙台 141ビル5F
- 講師: 石田えみ子氏(PETフォーラム代表、親業訓

練シニアインストラクター)

- 参加費: 500円
- 主催: PETフォーラム
- 連絡先: TEL/FAX:022 281 0858
URL: http://www.k3.dion.ne.jp/~smi_e55/index.htm

2/4 2/22 3/5 EM講習会「環境と放射能汚染 対策について」

【基礎編】

- 日時: 2月4日(土)、2月22日(水) 13:00~16:00
- 内容: EMの紹介と活用法、放射能汚染対策と具体的な対策
- 講師: 菊地素博氏(東北EM普及会理事)
- 参加費: 無料

【実践講座】

- 日時: 3月5日(月) 10:00~15:30
- 持ち物: エプロン、ビニール手袋、マスク、牛乳パック(空)1本、
昼食、朝にといだ米のとぎ汁4~5合2リットル(2~3合
の場合は1リットル)をペットボトルに入れて持参
- 参加費: 500円

【共通事項】

- 場所: 名取市文化会館 会議室
- 申込方法: 下記連絡先までお問合せください
- 主催: 東北EM普及会
- 連絡先: TEL:090-6220-6135、0223-24-5191

2/22 自然エネルギー等普及プロジェクト シンポジウム 3.11震災から学ぼう! ~これからの自然エネルギー~

東日本大震災を機に、エネルギーシステムのあり方が根本から問われています。この現状を踏まえ、東北の風土や文化を生かしたエネルギーシステムを見直し、低炭素循環型の自然エネルギーについて考え、提案する場として開催します。

- 日時: 2月22日(水) 14:40~17:40(受付開始・開場: 14:20)
- 場所: エル・パーク仙台5階 セミナーホール2
(仙台市青葉区一番町4-11-1 141ビル)
- 内容: ★講演1 震災に学ぶ~エネルギー・環境学
に携わってきた者として~
講師: 新妻弘明氏(東北大学大学院環境
科学研究科教授)
★講演2 震災時の自宅の太陽光システム
の活用事例の報告
講師: 今野勇氏(宮城県地球温暖化防止活動推進員)
★パネルディスカッション「われわれのく
らしと自然エネルギー」
コーディネーター: 新妻弘明氏
パネリスト: 渡辺信哉氏(塩釜市団地水産
加工業協同組合 部長)
渡辺修次氏(山元町立山下中学校 校長)
小野幸助氏(株式会社建築工房 代表取締役)
今野勇氏
菊地重雄氏(MELON自然エネルギー等普
及プロジェクトリーダー、(特活)川崎町の
資源をいかす会理事長)
★展示ブースも設置します
- 定員: 70名

- 主 催: 仙台心のケア研究会
- 後 援: 仙台市精神保健福祉総合センター(はあとぼーと仙台)
- 連 絡 先: TEL:080-3328-7186
E-mail: qqw59pc9k@star.ocn.ne.jp

2/12 3/25 4/29 東日本大震災で大切な方を亡く
された方のためのささえあいの会

想いを話すことを中心に、語りあい、わかちあい、ささえあう場所です。

- 日 時: 2月12日(日)、3月25日(日)、4月29日(日)
各回13:00~15:00
- 場 所: 仙台市福祉プラザ10階
- 申込方法: 不要
- 主 催: 社会福祉法人 仙台いのちの電話
- 連 絡 先: 〒981-8691 郵便事業(株)仙台北支店私書箱26号
TEL:022-718-4401 FAX:022-718-4431
URL: <http://www6.ocn.ne.jp/~sen/>

2/14 NPOのための会計・税務講座(5)
押さえて安心! 活動計算書のポイント

2011年6月に改訂されたNPO活動促進法では、今年から「収支計算書」が「活動計算書」へ代わります。その違いを学び、実際に活動計算書を作成してみましょう!

- 日 時: 2月14日(火) 13:00~16:00
- 場 所: みやぎNPOプラザ 第2会議室
- 講 師: 成田由加里氏(公認会計士、税理士)
- 対 象: NPO・市民活動団体の理事・監事、会計担当者
- 定 員: 20名(申込先着順)
- 参加費: 1,000円
- 主 催: 宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 運営・実施: (特活)杜の伝言板ゆるる
- 連 絡 先: みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

2/14 東北「道の駅」大震災研究プロジェクト 報告会
東北「道の駅」の震災対応の実態と新しい役割

本報告会では、東日本大震災において、「道の駅」が果たした救援、復旧・復興支援機能の実態を報告するとともに、関係者のパネルディスカッションを通して、「道の駅」が今後果たしうる、地域の多機能型交流拠点としての役割を議論・提案します。

- 日 時: 2月14日(火)13:00~18:00
- 場 所: せんだいメディアテーク
- テ マ: 『東北「道の駅」の震災対応の実態と新しい役割』
- 内 容: ★基調講演
東北から考える日本創生への道~「道」という視点の重要性~
講師: 寺島実郎氏(多摩大学学長)
★調査結果報告
★パネルディスカッション
「道の駅に求められる新しい地域連携機能とは」
パネリスト(予定)
赤川正一氏(国土交通省東北地方整備局)

- 道路部 道路情報管理官)
- 遠藤栄悦氏(道の駅「三本木」駅長)
- 高野哲也氏(道の駅「ひらた」駅長) ほか
- ★質疑応答

- 参加費: 無料
- 申込方法: 所定の申込書に記入の上、FAXにて申込
- 定 員: 200名(締切2月7日・先着順)
- 主 催: 多摩大学地域活性化マネジメントセンター
- 協 力: (特活)東北みち会議
- 連 絡 先: (特活)東北みち会議
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-32
オーロラビル2階
TEL:022-398-5518 FAX:022-722-3381

2/15 2/23 3/14 育休復帰をイメージアップ!

育児休業中、子育てに奮闘しているうちに近づく職場復帰。復帰に向けた悩みや不安はつきないもの。育休中の仲間と一緒に、それぞれが抱える課題を整理して復帰後の生活を具体的に描いてみませんか?

- 日 時: (1)2月15日(水) 10:30~12:30
対象: 4月末までに復帰する女性
受付期間: 1月6日(金)~2月6日(月)
- (2)2月23日(木) 10:30~12:30
対象: 4月末までに復帰する女性
受付期間: 1月6日(金)~2月6日(月)
- (3)3月14日(水) 10:30~12:30
対象: 6月末までに復帰する女性
受付期間: 2月6日(月)~3月5日(月)
※復帰時期に合わせて日程をお選びください
- 場 所: エル・ソーラ仙台(アエル28階)
- 定 員: 20名(先着順)
※お子さんといっしょに会場内には入れません。託児をご利用下さい
- 参加費: 500円
- 託 児: 300円/子ども1名
※6ヶ月以上のお子さんが対象
※しょうがいのあるお子さんや上のお子さんについてもご相談ください
- 申込方法: 下記連絡先まで申込
- 主 催: 財団法人せんだい男女共同参画財団
- 連 絡 先: エル・ソーラ仙台 管理事業係
TEL:022-268-8044 FAX:022-268-8045
URL: <http://www.sendai-jp>

2/15 NPOのためのマネジメント講座(5)
みんなの意見を「見える化」!
ファシリテーショングラフィックを学ぼう

ファシリテーショングラフィックとは、ホワイトボードや模造紙を使って、話し合いの流れを参加者に見えるように記録を取ること。参加者全員が同じ論点にむかって話し合う手助けをしてくれます。この技を学んで成果が上がる会議に生まれ変わいませんか?

- 日 時: 2月15日(水) 13:00~16:30
- 場 所: みやぎNPOプラザ 第2会議室
- 講 師: 徳田太郎氏(特活)日本ファシリテーション協会会長

- ★薪ストーブのある暮らし(1)
講演「我が家の薪ストーブライフetc」
講師：深澤光氏(マキワリスト)
- ★薪ストーブのある暮らし(2)
「夫々の目線から薪ストーブの事を語ろう～不安や疑問の解消～」(参加者も交えたフリートーク又はパネルディスカッションを予定)
※外国製薪ストーブ&煙突のブース展示予定
※新規入会&個別相談予約の受付有り
(薪の調達・薪ストーブ導入等)

- 対象：薪ストーブや森に関する暮らし方に興味関心のある方々
- 定員：50組(申込先着順)
- 参加費：無料
- 持ち物：白飯おにぎり(自分達が食べる個数)、箸、お皿
- 申込方法：電話、FAX、メール、またはHPの申込フォームにて申込
- 主催：宮城大学地域連携センター
/ (特活)フォレストサイクル元樹
- 共催：財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
(特活)川崎町の資源をいかす会
- 連絡先：(特活)フォレストサイクル元樹
TEL:090-9631-1610 FAX:0228-52-4335
E-mail:npo@fs-genki.com
URL:http://www.fs-genki.com

2/12 日 「多文化防災」の新たな展望 ～東日本大震災での外国人支援について考える～

東日本大震災から11か月を機に、改めて多角的に災害時外国人支援を振り返るとともに、震災後に実施された『多文化防災』モデル事業研究会の報告を行います。

- 日時：2月12日(日) 13:00～17:00
- 場所：仙台国際センター 3階「白樺1」、2階「桜2」
(仙台市青葉区青葉山)
- 内容：【第1部】
★報告「仙台市災害多言語支援センターの活動と外国人被災者アンケート」
★基調講演「災害時にいかされた『顔の見える関係』—ラジオでの多言語情報提供」
講演者：板橋恵子氏(Date fmパーソナリティ)
★パネルトーク「多文化の視点から見るこれからの防災—『多文化防災モデル』の提案」
パネリスト：朝間康子氏(仙台市立三条中学校) 今野均氏(片平地区連合町内会) 憑雷氏(仙台地区中国学友会)
コメンテーター：柴山明寛氏(東北大学災害制御研究センター)
コーディネーター：佐藤剛氏(仙台国際交流協会)
- 【第2部】
★分科会(1)ラウンドテーブル「ボランティア活動を語る—『多文化防災』の視点から—」
話題提供：遠藤弘望氏(仙台市災害時言語ボランティア)
佐藤登氏(仙台イスラム文化センター) 早川敏氏(仙台市社会福祉協議会)
コーディネーター：菊池哲佳氏(仙台国際交流協会)
- ★分科会(2)パネルトーク「団体間のネットワークを通じた多言語情報提供支援」
パネリスト：土井佳彦氏(多文化共生マネージャー全国協議会)
内藤稔氏(東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター)

コーディネーター：須藤伸子氏(仙台国際交流協会)

【交流会】

- 対象：防災や多文化共生に関心のある市民、仙台市災害時言語ボランティア、仙台市災害多言語支援センター関係者
- 参加費：無料
- 申込方法：要事前申込。名前、連絡先、所属を明記の上、電話、FAX、メール、郵送にて申込
- 主催：財団法人仙台国際交流協会
- 連絡先：〒980 0856 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内
TEL:022 265 2480 FAX:022 265 2485
Email: a-kikuchi@sira.or.jp
URL:http://www.sira.or.jp

2/12 日 第3回 六ヶ所村ラブソディー 東日本市民サミット

これ以上被災地に放射能を垂れ流すな！いまこそ再処理工場の稼働中止の決定を！

- 日時：2月12日(日) 10:00～17:00
交流会：18:30～20:30頃
- 場所：仙台市民活動サポートセンター6F セミナーホール
- 内容：★講演「澤井正子に聞く！ 3.11後の核燃サイクル」
講師：澤井正子氏(原子力資料情報室)
★報告「六ヶ所再処理工場による放射能汚染」
講師：永田文夫氏(三陸の海を放射能から守る岩手の会)
★報告「市民による政策を変えるための具体的運動」
講師：田村剛 氏(豊かな三陸の海を守る会)
- 参加費：500円(高校生以下無料)
※交流会：約3,000円
- 申込方法：下記連絡先まで申込
※わかめの会 三陸・宮城の海を放射能から守る仙台の会のHP
(http://mswkm.net/)からの申込みも可能です
- 主催：六ヶ所村ラブソディー東日本市民サミット実行委員会
- 連絡先：TEL:090 8819 9920(20時以降)
FAX:022-302-3284
E-mail:wakamesanriku@yahoo.co.jp

2/12 日 仙台ピアカウンセリングの集い ～第5回 仲間と共に癒しの時を持ちませんか！～

大震災であなたの心は折れそうになっていませんか？こんな時だからこそ話し合える仲間が必要なんです！仲間と経験と力と希望を分かち合い共に勇気を持って力強く新しい人生(回復と生活の再建)に出発しませんか？

- 日時：2月12日(日) 14:00～16:00
- 会場：仙台市福祉プラザ3階
託児室(仙台市青葉区五橋2-12-2)
- 対象：精神障害当事者、健常者であっても今回の大地震で心が痛み悩んでいる方、及び家族に限定(タイプB型例会クローズ方式)
- 内容：ひたすら体験を語り又聴くことを通して精神疾患からの回復を目指す自助グループの集いです。
- 定員：10名(予約制)
- 参加費：無料
- 申込方法：下記連絡先まで電話またはメールにて申込

活動時間は半日3時間以内)

- 費用: 無料
- 申込方法: 依頼主団体名、担当者(健聴・難聴)、連絡先(電話、FAX、メール)、行事名とその日時・場所、「スクリーン表示」か「ノートテイク」かを明記の上、下記連絡先までFAXまたはメールにて申込
※依頼は先着順ですが、初めての利用となる方を優先します。件数に限りがございますので、ご了承ください。
- プロジェクト期間: 3月31日(土)
- 主催: (特活)パソコン要約筆記文字の都仙台
- 連絡先: 〒983-0851 仙台市宮城野区榎ヶ岡5 レターケース8
TEL/FAX: 022-290-7159
E-mail: mojimi@plusvoice.net
URL: http://mojimi.kuronowish.com/

電話相談

弁護士による無料電話相談

震災を理由に解雇されてしまった、生活が困窮しているなど、悩んでいることがあれば気軽に相談してください。電話で事前予約をして頂ければ、弁護士との対面相談も可能です。

- 相談電話番号: 022-398-9854
- 日時: 毎週金曜日 13:00~16:00
- 主催: (特活)ワンファミリー仙台
- 連絡先: 〒980-0802 仙台市青葉区二日町4-26
リパティアーハイツ二日町102
TEL: 022-398-9854
URL: http://www.onefamily-sendai.jp/

寄り添いホットライン

「一人にしない」「社会から切り離さない」ことを目指して、電話相談に取り組んでいます。どんな悩みでも、一度相談してみてください。

- 相談電話番号: 0120-279-338
- 日時: 毎週木・土 10:00~22:00
- 対象: 岩手・宮城・福島県の方
- 主催: 一般社団法人社会的包摂サポートセンター
一般社団法人パーソナルサポートセンター
- 連絡先: 一般社団法人社会的包摂サポートセンター
URL: http://279338.jp/?page_id=17

2/7 2/14 2/21 2/28 女性への暴力電話相談

ドメスティック・バイオレンスや性暴力の被害に関する問題を抱えている方からの相談に応じます。一人で悩みを抱えず、どうぞご相談ください。

- 相談電話番号: 022-268-5145
- 日時: 2月7日、14日、21日、28日(火曜日) 14:00~19:00
- 主催: 仙台市/財団法人せんだい男女共同参画財団

イベント

NPOのための法人設立・団体運営相談

NPO法人の設立に関わることやNPOの運営について、お気軽にご相談ください。

- 日時: 毎週水曜日 13:00~17:00
- 場所: みやぎNPOプラザ
- 定員: 3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間。
- 主催: 宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先: みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

2/11 薪ストーブセミナー ~火のある暮らし始めませんか~

東日本大震災を機に、自然と共生するライフスタイルへの関心が高まっています。このセミナーでは、薪ストーブや森と関る暮らし方に関する疑問や不安に答えるべく、情報提供をはじめ、実践者や薪ストーブ製作現場の生の声をお伝えします。

- 日時: 2月11日(土) 10:00~15:00(9:20受付開始)
- 場所: 宮城大学大和キャンパス
(黒川郡大和町学苑1番地1、県立図書館隣)
- 内容: ★地域ブランド薪ストーブ実演会(小割作り、焚付け、火力調整)
・薪ストーブ製作現場から(製作プロセス、仕組み)
・薪の入手方法について(再生エネルギーの地産地消の提案、間伐材ステーション仕組)
・試食会~薪ストーブで食が変わる?
参加者持参の白飯おにぎり→焼おにぎり市販のピザ・輸入牛味比べ

ありがとうございます!!

今月の新入会員・継続会員 (2012.1.16現在) 敬称略

- 正会員 41名
- 賛助会員 28名
- ★仙台市 ●遠山洋子
- ★東京都 ●(株)ユニテック
- 情報会員 71名
- ★仙台市 ●有坂紀美江
- ★大崎市 ●みやぎ地域づくり団体協議会大崎支部
- ★登米市 ●(特活)すくすく保育研究所
- ★福島市 ●全国子供視力回復訓練協会

会員募集

会員種類	年会費
個人正会員	10,000円
NPO正会員	10,000円
法人正会員	20,000円
個人・NPO賛助会員	5,000円
法人賛助会員	30,000円
情報会員	3,000円

郵便口座番号 02250-0-43800
振替口座 加入者名 特定非営利活動法人 社の伝言板ゆるる

社の伝言板ゆるるは、地域の課題を解決するために活動するNPOの継続的運営やそれに参加するボランティアの育成を支援している団体です。特に1997年に創刊した月刊ゆるるは、市民活動やボランティアをしたい市民、それを応援したい企業、行政、そしてNPOをつなぐ情報誌として広く活用されています。これからもNPOや参加する市民にとって役立つ情報を発信し、地域の生活環境が向上するように活動していきますので、ぜひ、私たちの会員となって応援してください!!

■会員には毎月「月刊ゆるる」が届きます

※正会員以外は、総会での議決権がありません

(会員申込みの方は、送信欄に会員の種類をご記入下さい)

information

1月15日までにゆるる編集部に届いた情報です。
詳細は各情報の連絡先にお問い合わせください。

ボランティア募集

3/31 3土 こどもがつくるまち Piccoli(ピッコリ) せんだいピコせんボランティア募集!!

こどもたちが仮想都市(ピッコリせんだい)の中で住民登録をし、働き、得た収入(独自通貨「ピコ」)で遊ぶ…この遊びを通して、働く意義や社会環境とのつながりを体感できる仕組みです。是非、子ども達の成長の場のお手伝いをお願いいたします。

★子ども会議から参加できる正会員及びサポーターも同時募集!

- 日 時:3月31日(土) 8:30~16:00(短時間でも可)
※こどものまちは9:30~15:00
※説明会も行いますのでお問い合わせ下さい
- 場 所:せんだい演劇工房10-BOX(仙台市若林区卸町2-12-9)
※駐車場あり
- 活動内容:★子ども会議の中での相談役・サポーター
★準備・後片付け
- 対 象:高校生・大学生・一般の方
- 募集人数:50名
- 報 酬:なし
- 主 催:こどもがつくるまちPiccoliせんだい~Miyagino~
- 連絡先:ピコせんサポーター事務局(担当:斎藤)
TEL:080-2823-0872 FAX:022-296-6056
E-mail:info.picosen@gmail.com

被災した子ども、および経済的に余裕のない家庭の子どもたちの学習ボランティア募集

被災した子ども、および経済的に余裕のないご家庭の子どもに対して、人間関係づくりをベースとした、学習支援ボランティアを担ってくださる方を募集しています。

- 活動内容:★マンツーマンに近い形での、学習サポート
対象:小学4年生~中学3年生の、数学(算数)・国語・英語
- 活動場所:【コミュニティ型学習支援センター】
日時:毎週火曜日~金曜日 19:00~20:30
場所:「19 Tsutsujigaoka」(仙台市榴ヶ岡5-3-21 コーポ小松101)
【仮設住宅集会所】
日時:毎週月曜日~木曜日 19:00~20:00
場所:(月)南小泉アパート(火)仙台港後背地6号公園(水)鶴巻 丁目東公園(木)荒井小学校用地
※現地までの交通費は全額お支払いいたします。
- 応募条件:・子どもと向き合い、子どもの成長を一緒に喜んでくださる高校生・大学生・社会人の方
・週1回以上参加できる方歓迎
(毎週は難しいという方もご相談ください)
※河合塾との連携による研修会などを用意していますので、学習指導が未経験の方でも大丈夫です
- 申込方法:興味のある方は、直接団体までご連絡ください

説明会にご参加いただいた後、活動先をご相談させていただきます

- 主 催:(特活)アスイク
- 連絡先:〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5-3-21-101
TEL/FAX:022-781-5576
E-mail:asuiku0328@gmail.com
URL:http://asuiku.sendai-net.com/

お知らせ

2012年度「We learn」モニター募集

女性と学習・次世代育成の専門情報「We learn」のモニターになってみませんか?

- 内 容:★「We learn」を読んで、アンケートに答える
★自分の地域の元気でユニークな男女共同参画活動の紹介
※毎月のアンケート回答は、FAXまたはメール添付で行っていただきます
- 依頼期間:2012年4月1日~2013年3月31日(1年間)
- 募集人員:15名程度 ※性別不問
- 謝 礼:月刊「We learn」1年分
- 申込方法:規定の応募用紙に必要事項を記入し、FAXまたはメールにて申込
※応募用紙はホームページからダウンロードしてください
- 申込締切:3月9日(金)
- 主 催:公益財団法人日本女性学習財団
- 連絡先:〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館
TEL:03-3434-7575 FAX:03-3434-8082
E-mail:jawe@nifty.com
URL:http://www.jawe2011.jp

事業案内

聴こえの不自由な方に文字で伝える パソコン要約筆記 出前出張のお知らせ

震災からの復興、被災地支援の一環として、パソコン要約筆記の派遣を行うプロジェクトを立ち上げました。今まで情報保障がなく不自由な状況で集会をしていた団体様や、授業の講義保障を受けられないでいる学生の方など、この機会に是非ご利用ください。
※パソコン要約筆記とは、聴覚に障害のある方のための通訳の一種のこと

- 利用条件:・東北にお住まいの個人/団体(難聴健聴問わず)
・聞こえに不自由な方の参加が見込まれる集会であること
・1個人/団体あたり2回が限度(1回あたりの

NPOの
新しい
会計基準を
学ぼう!

宮城県
主催

NPO法人
会計基準
研修会



特定非営利活動促進法が改正され、会計書類が「収支計算書」から「活動計算書」に変更になり、NPOの活動がよりわかりやすい記載方法になりました。今回の「活動計算書」に変更になったことに併せ、NPO法人会計基準に基づく会計報告のあり方やそれに伴う会計処理の理解を深める研修会を実施します。

●日時・開催場所 2/23(木)【大崎市】 2/28(火)【登米市】
2/29(水)【気仙沼市】 3/1(木)【仙台市】
3/12(月)【大河原町】 3/14(水)【石巻市】

●参加対象 NPOの会計担当者及び役員等
●定員 20名



今こそ
目指そう、
認定NPO法人
講座

宮城県
主催



2011年6月15日認定NPO法人の申請要件が改正されました。そして今年4月1日、特定非営利活動促進法が改正され、この中に認定NPO法人制度が盛り込まれます。認定者も宮城県と仙台市に変わり、寄付集めのスタートアップを支援する「仮認定制度」も始まります。新年度が始まる前に、具体的な制度の概要を学びましょう!

●日時・開催場所 2/22(水)【仙台市】 2/27(月)【石巻市】
3/9(金)【大崎市】

●参加対象 市民活動団体、NPO法人、これから団体を立ち上げようと考えている方
●定員 各会場25名

申込方法

氏名、団体名、連絡先(住所、TEL、E-mail)を明記のうえ、メール、FAX、電話にて事前申込み(余裕があれば、当日申込み可)

申込先

特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる
TEL 022-791-9323 FAX 022-791-9327 E-mail npo@yururu.com

主催

宮城県

企画・実施

特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる